

婦負の野



〒930-0143
富山県富山市西金屋6682番地
社会福祉法人めひの野園
TEL.076-436-0270
発行責任者 中田 匡
(表題者)
高岡市巾川上町3の31
(故) 社通 萩水先生

みじまの工房で手芸に挑戦！



十四歳の挑戦！

やねのつえのガチヨウで、
製菓作業に挑戦！



栽培・堆肥部門のハウスで花苗作業に挑戦！

「十四歳の挑戦」でめひの野園を訪れ、様々な体験を積んだ地域の中学生から、心のこもった感謝の手紙が届きました。

『厳しい暑さが続いておりすがいかがお過ごしですか。

先日はお忙しい中、「社会に学ぶ『十四歳の挑戦』で私たちを温かく指導していただき、ありがとうございました。

活動の初日は、普段あまり関わったことのない方々を見て、正直驚きや戸惑いが大きかったです。でも、一日一日一緒に過ごしていくうちに初日では見つけられなかった利用者の方々の良い所を見つけられるようになった気がします。また、最初は利用者の方々と接するのが怖かったのも、日が経つにつれて接するのが楽しくなってきました。

今回の体験の前までは、「働く」とは生活するためだけのものだと思っていました。でも今回の体験で、障害がある方でも一人の人間として、この社会で生活していけるようにサポートすることも、働くということだと改めて考えることができました。

この五日間貴重な体験をさせていただき本当にありがとうございました。』

めひの野園の今日のニュースと明るい明日を紹介します!

あしたのめひの

第5回

新グループホーム
「つまま寮」開所～自閉症者への支援に
特化した生活の場を～

9月1日、めひの野園の新たなグループホーム「つまま寮」が開所しました。「つまま寮」は、「自閉症の支援に特化したグループホーム」という構想から、3年前に「グループホーム検討委員会」が設置され動き始めました。利用者の特性に配慮し、より快適な生活の場を用意しようという検討を重ね、ようやく完成に至りました。今回は「つまま寮」にまつわるお話を、「梨の木苑」サービスマン責任者の濱井秀之主任に聞きました。

Q. 「つまま寮」の名前の由来は?

——めひの野園の事業所の名前はどれも万葉集から引用されています。「つまま寮」は万葉歌人・大伴家持の一首「磯の上の 都万麻(つまま) を見れば 根を延えて 年深からし 神さびにけり」(海辺の岩の上に立つ「つまま」を見ると、根ががっちり張って、見るからに年を重ねているようだ。なんとも神々しいことだ)から引用し、「利用する彼らが、この呉羽の地にかがっちり根を張って生活していつてほしい」という願いが込められています。



爽やかな秋空の下で行われた開所式でのテープカット



「寮内はシンプルな構造にすることでこだわりにくくなっている」と濱井主任。

Q. 自閉症に特化した造りとは具体的にどんなことですか?

——自閉症の方は「視覚的な情報に強い」と言われています。そこで、目で見て分かりやすいように、部屋のドアを色分けしてあります。また、こだわりを軽減するために、ゴミが取り出せないポスト式のゴミ箱や、壁紙を用いていない壁など、うさか寮改築の際に得たノウハウを活用しました。さらに、利用者の特性を考慮して、ドアの消音部品を埋め込み式にしたり、ドアが外れないようストッパーを設置したりしています。やぶなみの家具部門特製のイスは、気になるような部分を極力なくしたシンプルな造りでお気に入りのようです。

また、防犯面を考慮して、玄関はオートロック式になっています。つまま寮では、鍵を使える方、使えない方が一緒に生活していますが、鍵を使える方の個別のスペースと、鍵がなくても自由に利用できるスペースに分けてあることで、より自由で快適に生活できるような仕組みになっています。これは初めての取り組みですが、これから新たなグループホームで男女別の仕切りが必要な時などは、このノウハウが活かせるのではないかと思います。

Q. 利用者の反応はどうですか?

——鍵をかけるなどの新しいルールもあります。暮らしやすいするためのものなので反応は良く、楽しそうです。たまに鍵のかけ忘れがあったりしますが、今後の練習ですぐに改善されると思います。

一人ひとりの障害の程度に差があっても、それぞれの特性に適した支援が提供されることで、7名が一つ屋根の下で自由なく暮らしていける——この実現はひとえにめひの野園がこれまでに培ってきた自閉症者への専門的な支援のノウハウの賜物だと思います。

Q. 今後の展望は?

——めひの野園では第二期、第三期と新しいグループホームの建設を計画しています。しかし、これらを次々と建てることは難しいというのが現状です。今後は家賃の補助を受けながらアパートで生活をする「サテライト事業」の活用など、新たな手段も取り入れつつ、利用者の生活の場がより豊かになるよう努めていきたいと思っています。

(広報委員会 柴田 香葉江)



遠方に富山湾、新湊大橋を望み、「見晴らしが良い」と評判の「つまま寮」。

2017 夏祭り・花火大会

共に支え合い、共生
できる社会を目指して

7月28日(金)、呉羽運動広場で「めひの野園夏祭り・花火大会」が開催されました。

地域の皆さんとの交流の場として毎年開催されている夏祭り。皆さんと一緒に見上げる夏の夜空を彩る花火は、呉羽地区の夏の風物詩となっています。

地域の皆さんと一緒に
輪踊りを楽しみました！

会場のアトラクションは、めひの野園の和太鼓サークル「喜樂太鼓」の和太鼓演奏に始まり、「マヒエホアラウナ」の皆さんのフラダンスや、民謡歌手の長岡すみ子さんの歌声が集まった人を楽しませてくれました。曲に合わせて利用者と地域の皆さんが一緒になって輪踊りを踊り、夏の暑さを忘れさせる楽しいひとときを共に過ごすことが出来ました。



夜空を彩る花火をみんなで見上げました。

模擬店也大盛況！

模擬店会場では、作業センターふじなみの「夏祭り限定テカシイタケ」や、やねのうえのガチヨウのパン、ラスク、クッキー、かき氷、飛騨流葉牧場の飛騨地鶏を使った串焼きや唐揚げ、カレーなど、めひの野園の看板メニューが勢ぞろい。どれも行列ができるほどの人気で、なかにはカレーを2杯、3杯とおかわりする方もいらつしました。



民謡歌手長岡すみ子さんの素晴らしい歌声が会場を魅了しました。



「よ〜く狙って…。見事！ホールインワン！

また、営業・販売課が企画した子どもコーナー「ホールインワンゲーム」は、地域の子どもたちに大人気。見事にホール

実行委員長のコメント

今年の夏祭り・花火大会も昨年同様、天候に恵まれ、地域から多くの方に足を運んでいただきました。

おかげさまでアトラクション会場、模擬店会場ともにたくさんのお客様で賑わい、活気に満ちた夏祭りになりました。お客様の笑顔や、温かい言葉に感謝するとともに、今後もこのようなイベントを通して地域のみんなが支え合い、共生できる社会への道筋をつける一助になればと思います。

最後に、夏祭り・花火大会の開催に当たり、多くのご協力を賜り、本当にありがとうございました。

(夏祭り・花火大会実行委員長 般若 敏雄)



大勢のお客様で賑わった模擬店会場。「飛騨地鶏」の串焼き、カレーは行列ができるほどでした。

インワンを決めて、景品を手にしたかわい
い笑顔が印象的でした。

めひのって いいね!



地域交流深める体験会



栽培・堆肥部門のハウスで行われた「多肉植物寄せ植え体験」。
家族の方と相談しながら作業を進めていきます。

8月3日(木)、地域住民との交流を深め、めひの野園で取り組まれている活動への理解を深めてもらうことを目的に、「多肉植物寄せ植え体験」と「椎茸摘み取り体験」が行われました。

今回の体験会には、地元地域から19組31名が参加されました。夏休み中ということもあり、親子連れの参加も多く、和気あいあいとした雰囲気の中で体験会になりました。



貝やビーズで飾り付け、素敵な寄せ植えが出来ました。

まず、栽培・堆肥部門のハウスで「多肉植物寄せ植え体験」が行われました。栽培・堆肥部門の職員が寄せ植えのポイントを説明した後、思い思いにレイアウトし、寄せ植えしていただきました。



摘み取った椎茸と完成した鉢植えは、お土産として持ち帰っていただきました。

次に作業センターふじなみの工場内を見学しました。菌床椎茸ができるまでの工程を職員が説明すると、参加された方は興味深そうな様子で耳を傾けていました。

ハウスで椎茸の摘み取りが始まると、「どの椎茸がおいしいかな?」「こちのほうが大きいのよ」と、皆さん思い思いに摘み取っていました。

今後このような取り組みを通して、めひの野園について広く知っていただき、地域の方々との交流を深めていけたらと思います。

肉厚でおいしい椎茸が 摘めたよ!



椎茸摘み取りの前に、作業センターふじなみ工場内を見学。

創造的な暮らしや仕事を追求するということは、現状に満足せず、誰も気にかけたことのない場所に目を向け、「あつたらしいな」を実現し続けていくということではないだろうか。拙い創造力を少しでも磨くため、まずは毎日同じような色味・同じような品目で妥協している弁当に、明日からは何かひとつ、彩りを加えてみようと思う。

ホームセンターの魅力は、まずその品数の豊富さにある。何か目的があつて訪れた訳ではない時でもあちこちに食指が動く。また、商品の多様さも魅力の一つである。便利なもの、安価なもの、使途の不明なもの、あらゆる商品が所狭しと並べられているが、おおよそ一般的に需要があるとは思えないものも少なくない。そういったニッチな商品を手に取り、ターゲット層や商品化の経緯を想像すると、わくわくしてくる。ホームセンターに在ると、消費者の様々なニーズを探り、新たな商品を研究する開発者たちの溢れる熱意を感じるのだ。非常にクリエイティブな空間である。

私は、ホームセンターが好きだ。休日には祖母や母と連れ立ってホームセンターに向き、あれこれと商品を物色して過ごしていることが多い。たまの休日をホームセンター巡りで終えたとしても一向に構わないし、むしろ充実した二日であったとさえ思う。



めひの野園職員の
雑感コーナー



やねのうえのガチョウ
高緑 千苗



有限会社 すずや 寿々屋

〒930-8505 富山市総曲輪3丁目8番6号
大和富山店地下1F
☎(076)-407-6620



「深い味わいと旨み」が評判の、飛騨地鶏を使った「ネギマ串」、「ししとう串」。

富山大和地下1階にある焼き鳥専門店『ゆめみ亭』にて、「飛騨地鶏ネギマ串」「飛騨地鶏ししとう串」を販売しております。

めひの野園で飼育している飛騨地鶏の肉は、深い味わいと旨みがありますね。

ネギやししとうとの相性も良く、お客様から大変好評で、当店の人気商品となっております。

ぜひ一度、お立ち寄りください。



店内はめひの野園の卵を使った「クリームパン」を始め、約50種類のパンが並ぶ。

バンブス

〒930-0044 富山市中央通り1-5-32
☎(076)-425-4884

富山市中央通りにお店をオープンして昨年40周年を迎えました。

食パンを始め、昔ながらのあんぱんやクリームパン、フランスパンなどのハード系、クロワッサンやデニッシュ類など、50種類ほどのパンを焼いています。

その中でも、めひの野園の卵を使って作るカスタードクリームを使用したパンはとても人気があります。

ぜひご来店ください。



富山メイン
ストリート編

めひの野園を応援していただいているお店を紹介します！

こんな支援が あったまる!

第5回 作業センターふじなみ 「得意なことを活かす」支援

めひの野園で取り組まれている「合理的配慮」による支援。「こんな支援があったのか!」と思わず○をつけたくなるような心温まる支援を紹介します。

作業センターふじなみでは、菌床椎茸の「貫生産に取り組んでいます。「仕込み・培養部門」「ハウス(栽培)部門」「パック部門」と3つの工程に分かれ、利用者は一人ひとりの特性に合った作業に取り組むことが出来ます。

利用者がそれぞれの得意なことを活かして生き生きと作業に取り組むことが出来るように、どのような支援が行われているか紹介します。

支援の Point ここが○

自閉症の特性を活かして
「僕たちは培地をきれいに
並べるのが得意!」



菌床ブロックを一つひとつ等間隔で並べます。

右の写真は仕込み・培養部門の工場内です。椎茸菌が接種された菌床ブロックが、天井まで届きそうな高い棚にぎっしりと並べられています。一つひとつの菌床ブロックが等間隔で並べられていることにお気づきでしょうか。菌床ブロックは、空気の流れをよくするため、ある程度の間隔を置きながらきれいに並べていくことが必要です。とはいっても、これだけの数をひたすら並べていくのは想像しただけで大変です。しかし、「同じことを繰り返し返す作業」や、「正確にきちんと並べる作業」は、まさに自閉症の方の得意分野。高い天井まで均等に並べられている菌床ブロックを見ると、「これぞ職人技!」と感心してしまいます。

その後ハウス部門に運ばれた菌床からは椎茸が次々に生えてきますが、ここでも同様に、形が良く質の高い椎茸を栽培するために椎茸同士がぶつからないよう

な間隔できれいに並べることが必要です。時には、間隔を均等に空けるための板(ジグ)を使い、丁寧に培地を並べる作業を行っています。まさに、利用者の得意なことが活かされる支援が行われている場面です。



培地を等間隔に並べるために使っている板(ジグ)。

支援の Point ここが○

天候に左右されないため、
毎日決まった作業に取り組める

作業センターふじなみでの作業は、主に工場内やハウス内で行われます。ここでは気候に左右されることなく、椎茸生産に適した温度と湿度を保つための設備が整えられています。このような環境下で、「毎日決まった作業に取り組める」、「次に行う作業がわかる」、「作業の終わりが見える」ことが、利用者にとって落

ち着いて作業に取り組めることにつながっています。

それぞれの部門で、一人ひとりの利用者が自分の得意なことを繰り返しながら作業に取り組む——こうした作業が重なって、質の高い「めひの産の椎茸」が生まれているのです。



椎茸を手際よく摘み取る利用者。
「作業にやりがいを感じています!」

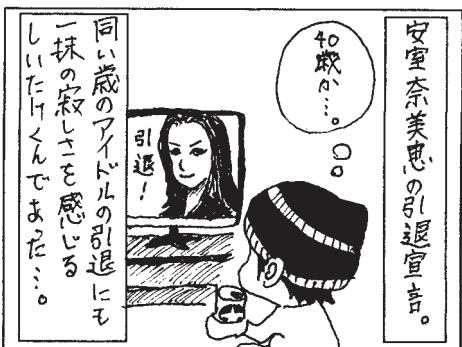
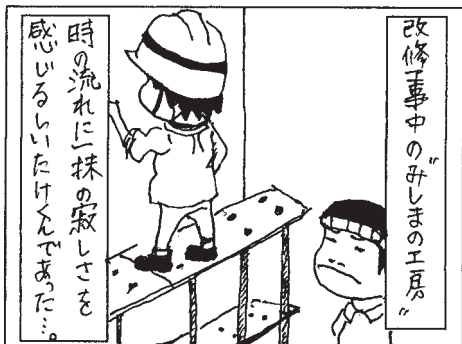
作業センターふじなみ創設時にモデルとなったのが、北海道の「おしま菌床きのこセンター」です。今年の4月から作業センターふじなみの職員は、おしま菌床きのこセンターまで足を運び、改めて本物の技に実際に触れるために研修を行いました。『もつと質の高い椎茸をたくさん作りたい』と、良い刺激となつて職員たちが頼もしくなつた。」と語るのは室主幹。そんな職員の姿は利用者にとっても良い刺激となっているようです。

今後、利用者と職員がともに作業に取り組む良きパートナーとして、より質の高いめひの産の椎茸作りを目指して突き進んでいくことでしょう。

(広報委員会 上田 智華)

しいたけくん

第44回 秋とともに深まる哀愁...!!の巻



(描・おかちん)



チャンスの度にベンチから声援を送るめひのナイン

全国社会福祉軟式野球大会北陸予選試合結果

1回戦 めひの野園 対 セーナー苑

	1	2	3	4	5	6	計
セーナー苑	1	0	0	0	0	1	2
めひの野園	0	0	1	0	0	0	1

北陸予選は残念な結果になったね。野球の技術的な面は分らないし、これといった敗因がないまま終わっちゃった印象だけど、強いて言うなら「相手に合わせてしまっ」部分が出たように思うね。気の優しい面があって、どこかゆずってしまうというか。グラウンドで中心になれる、いい意味で「自己中心的な」選手がいてもいいんじゃないかな。今後は「貪欲に勝利に向かって一丸となるチーム」を目指して欲しいね!

東真盛の



セメルも! マモルも!

無念の敗戦

セーナー苑に1対2

「ここで負けるわけにはいかない。」2年ぶりの全国大会を目指し、意を決して出場した北陸予選はまさかの結果が待っていた。初回に1点を先制されたものの、3回に中滝の適時打で追いつき、その後も攻め続けたが、結局最後まで勝ち越すことはできなかった。



ピンチには声を掛け合い、懸命に戦ったが...

熱戦続く呉羽リーグ

呉羽地区の野球愛好家が集い、9チームの総当たり戦で争われる、第25回富山新聞社杯争奪呉羽野球リーグ戦大会では熱戦が続いている。

めひの野園は現在、5試合で4勝1敗と健闘中だ。チームの中で特に気を吐いているのは久郷凌選手(作業センターふじなみ)。これまでの5試合ですでに3本塁打と勢いが止まらない。「自主練でやっている素振りのおかげでスウィングが鋭くなった」ことが好調の理由だそう。「これまでのチャラチャラしたキヤラはすでに過去の自分。これからはめひのを代表する打者としてチームを引っ張っていく存在になりたい」と語る。

今後のさらなる活躍に期待したい。



打撃好調の久郷選手

ご寄付ありがとうございました。

(H29.5.13~H29.7.31) 敬称略

- 富山市仏教連合会
佐藤理容院
(有)坂東設備
高柳オートサービス
(株)流通産業
(有)三和防災工業
クレハ運送(株)呉羽営業所
東洋ゴム北陸販売(株)
(有)新響社
(株)ダイヤライフ
(有)アイシシステム
(株)日本空調北陸
(株)タスキン北陸小杉営業所
宮本内科・外科・胃腸科クリニック
ホーチキ(株)富山営業所
(有)小林有機
長井悦子
寺田皮膚科泌尿器科医院
北陸レジン工業(株)
(株)フードシステム
(株)ユニオンランチ
山口書店
呉羽種苗園
(株)宝来
竹田精肉店
林商会(株)
(株)島田樹脂
(株)トヤマデータセンター
ニッタン(株)富山営業所
(有)タイセイウェアーズ
北陸フジクリン(株)
くれよん
(株)北国屋商店
サカキ産業(株)
(株)イブミ
(株)淀川ランドリー
サンウッド薬局桃井
石橋孝史
(株)ダイドードリンコ北陸高岡営業所
森産業(株)
(株)北陸パロン美装
(株)浪速電機工業所
岩永咲子
北陸銀行富山丸の内支店
(有)フォレストスペースプランニング

後援会名簿

(H29.5.11~H29.7.31) 敬称略

- 村藤幸作 富山市
中塩映彦 富山市
近岡佳彦 富山市
北日本放送(株) 富山市
小野千文 富山市

寄付金振込口座番号

北陸銀行五福支店 店番号140
普通預金4041542
社会福祉法人 めひの野園

来訪者

(H29.5.8~H29.8.9) 敬称略

- 北陸銀行 覚嶋 秀一
(株)マスタック・アグリ 日下 豊
富山銀行 桜木 剛
品川商事カンパニー 宮崎慎一郎
はまれの家 水橋店 高木 一義
富山市議会議員 安原 公恵
第一繊維工業(有) 村家 博
(有)すいせんの里 萩原 大貴
富山国際大学 彼谷 環
アイワイ(株) 太田 昭広
富士ゼロックス北陸(株) 島田憲一郎
富山県立しらとり支援学校 米原 孝志
北日本新聞 村上 文美
ダイワ通信(株) 森屋 徹
三建住宅販売(株) 坪田 伊歩
中央管機カクキュー(株) 棚田 益功
北陸銀行 山本 義晴
富山市都市整備部 宮田 律郎
富山市 笹倉 宏一
(有)侑愛会おしま菌床きのこセンター 中野 昭仁
富山福祉短期大学 黒滝 勝広・三山 美由紀
北銀リース(株) 竹内 久義
森産業(株) 大口 政邦
北陸銀行 高草木 新一
早川 佳成
(有)富山県社会福祉総合センター 山室 論紀
飯田 久範・西村 次男
(株)オレンジ 小林 泉
(株)トヤマデータセンター 高野 正勝
キヤノンシステムアンドサポート(株) 西田 敏晃
日本海建興(株) 岩崎 幸一
日本海リスト 林 茂知
北陸電力(株) 竹田 遥香
自由党富山県連 尾尻 真一
ボルファートとやま 栄 大士 靖

編集後記

前号の「編集後記」を読まれて驚かれた方もおられると思いますが、これまで32年間にわたり約100回もの編集後記を書かれてきた中田匡園長が、まさかの編集後記「卒業宣言」。後任に指名された私にとつては、先日の安室奈美恵「引退宣言」以上のサプライズになりました。

何はともあれ、今号からは現在広報委員長を務めております私、岡崎が編集後記を担当させていただきます。なにぶん浅学ゆえ気の利いたことも書けませんが、誌面作成における苦労話やこぼれ話などを紹介し、掲載記事に関心を深めていただければと思います。

さて、今号の表紙は「14歳の挑戦」。14歳という若さに合わせ、ポップなデザインにしました。「最初は驚きや戸惑いもあったけど、一緒に過ごすうちに利用者と過ごすのが楽しくなった」という言葉が印象的です。特集記事の「夏祭り」や「椎茸摘み取りと寄せ植え体験会」にも共通しますが、「地域との共生」というテーマは当園が取り組み続けている課題です。

とかく閉鎖的と言われがちなのに業界ですが、地域との交流を深めるイベントや取り組みを今後も当誌面で紹介していきたいと思っています。

(岡崎記)